

高千穂産業株式会社・高千穂化学工業株式会社
2019年度環境経営活動レポート
(事業期間： 2019年3月1日 ~ 2020年2月28日)



作成日： 2020年6月16日

環境経営方針

化学工業薬品及び循環型原料の開発製造を行う日々の生産活動において発生する廃棄物の抑制と再利用に努め、次世代への明るい未来の構築に向け努力を行います。地球環境の保全に向けた取り組みや、様々な環境活動に全員参加で自主的・積極的・継続的に取り組みます。

1. 環境関連法規制、条例等を遵守します。
2. 電力、ボイラーの運転効率化を行い二酸化炭素排出量の削減に努めます。
3. 資源の有効利用を行い、廃棄物の削減に努めます。
4. 節水活動により使用水量の削減を行います。
5. 化学物質の適正使用・管理を行います。
6. 環境に配慮した商品の購入を推進します。
7. 回収精製事業の効率化、売り上げUPを行い循環型社会の構築をめざします。

上記活動をとおして次世代への明るい未来をめざします。



制定日：2015年10月1日

改定日：2016年1月21日

代表取締役社長

荒木康秀

改定日：2020年6月16日

	課題	チャンス
内部	<ul style="list-style-type: none">・産廃処理先の確保と費用の増加。・生産性の効率化と、進まない設備更新。	<ul style="list-style-type: none">・少量ロットでの合成や蒸留精製を得意とする。・特にフッ素系化合物の取り扱いを得意とする。・多様な技術者を人材として確保している。
外部	<ul style="list-style-type: none">・特にコロナの影響による顧客の生産予定の延期など受託量減少。・受委託パートナーとして核となる顧客の獲得。	<ul style="list-style-type: none">・立地の良さと早いレスポンス。・フッ素系の取り扱うノウハウ。・大手パートナーの存在。

□組織の概要

- (1) 名称及び代表者名
高千穂産業株式会社
代表取締役社長 荒木 康秀
- (2) 所在地
本社・工場 大阪府豊中市名神口3丁目6番27号
高千穂化学工業株式会社 大阪府豊中市名神口3丁目5番8号
*高千穂産業と高千穂化学工業は同じ敷地内にある。
- (3) 環境管理責任者氏名及び担当者連絡先
責任者 取締役 荒木利幸 TEL : 06-6334-4381
担当者 研究室 金城可愛志 TEL : 06-6334-4381
- (4) 事業内容
化学工業薬品製造・開発、使用済み原料の再生
業務内容:使用済み原料から精製、抽出による循環型原料の製造を行う
- (5) 事業の規模
売上高 3.81 億円

	産業	化学工業	合計
従業員 (名)	8	2	10
敷地面積 (㎡)	1490		1490

- (6) 事業年度 3月1日～2月28日

□認証・登録の対象組織・活動

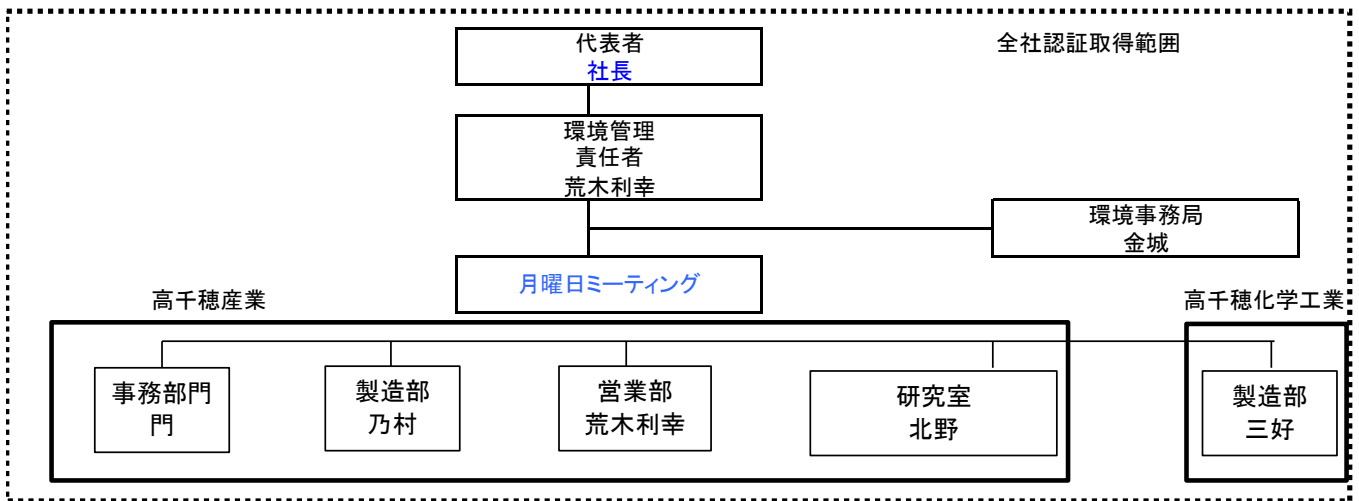
- 登録事業者名 : 高千穂産業株式会社
対象事業所 : 本社・工場、高千穂化学工業株式会社
- 対象外 : なし 全社認証登録範囲
- 活動 : 化学工業薬品製造・開発、使用済み原料の再生



更新日: 2020年6月16日

□実施体制図及び役割・責任・権限表

更新日： 2019年7月17日



役割・責任・権限	
代表者(社長)	<ul style="list-style-type: none"> 環境経営に関する統括責任 環境経営システムの実施に必要な人、設備、費用、時間、技能、技術者を準備 環境管理責任者を任命 環境方針の策定・見直し及び全従業員へ周知 環境目標・環境活動計画書を承認 代表者による全体の評価と見直しを実施 環境活動レポートの承認
環境管理責任者	<ul style="list-style-type: none"> 環境経営システムの構築、実施、管理 環境関連法規等の取りまとめ表を承認 環境目標・環境活動計画書を確認 環境活動の取組結果を代表者へ報告 環境活動レポートの確認
環境事務局	<ul style="list-style-type: none"> 環境管理責任者の補佐、月曜日ミーティングの事務局 環境負荷の自己チェック及び環境への取り組みの自己チェックの実施 環境目標、環境活動計画書原案の作成 環境活動の実績集計 環境関連法規等取りまとめ表の作成及び最新版管理 環境関連法規等取りまとめ表に基づく遵守評価の実施 環境関連の外部コミュニケーションの窓口 環境活動レポートの作成、公開(事務所に備付けと地域事務局への送付)
月曜日ミーティング	<ul style="list-style-type: none"> 環境活動計画の審議 環境活動実績の確認・評価 毎月活動計画のチェック、3ヶ月に1回 活動結果と指示を行う
部門長	<ul style="list-style-type: none"> 自部門における環境方針の周知 自部門の従業員に対する教育訓練の実施 自部門に関連する環境活動計画の実施及び達成状況の報告 自部門に必要な手順書の作成及び手順書による実施 自部門の想定される事故及び緊急事態への対応のための手順書作成 試行・訓練を実施、記録の作成 自部門の問題点の発見、是正、予防処置の実施
全従業員	<ul style="list-style-type: none"> 環境方針の理解と環境への取り組みの重要性を自覚 決められたことを守り、自主的・積極的に環境活動へ参加

□主な環境負荷の実績

数値は高千穂産業株式会社と高千穂化学工業株式会社の合計です。

項目	単位	2017年	2018年	2019年
二酸化炭素総排出量	kg-CO ₂	99,364	82,551	85,252
廃棄物排出量	kg	45,275	34,205	126,334
一般廃棄物排出量	kg	1,015	1,155	1,344
産業廃棄物排出量	kg	44,260	33,050	124,990
水使用量	m ³	2,881	1,920	1,735

※電力の二酸化炭素排出量換算値

0.522 kg-CO₂/kWh

※二酸化炭素総排出量にはLPGも含まれる

※産業廃棄物排出量には廃液以外も含まれる

□環境目標及びその実績 数値は高千穂産業株式会社と高千穂化学工業株式会社の合計です。

項目	年度	単位	基準値 (基準年度)	2019年		評価 達成率	2020年 (目標)	2021年 (目標)
				(目標)	(実績)			
電力による 二酸化炭素 削減	7	kg-CO ₂	52,139	54,746	53,229	○	52,139	51,096
		基準年比	2018年	105%	102%	103%	100%	98%
A重油による 二酸化炭素 削減	7	kg-CO ₂	20,693	20,279	21,305	×	19,865	19,658
		基準年比	2018年	98%	103%	95%	96%	95%
自動車燃料 による二酸 化炭素削減	7	kg-CO ₂	9,504	9,314	10,507	×	9,219	9,124
		基準年比	2018年	98%	111%	89%	97%	96%
上記二酸化炭素排出量合計		kg-CO ₂	82,336	84,339	85,042	×	81,223	79,878
一般廃棄物 の削減	12	kg	1,155	1,178	1,344	×	924	808
		基準年比	2018年	102%	116%	88%	80%	70%
廃液の削減	12	kg	31,640	158,200	124,590	○	66,444	69,608
		基準年比	2018年	500%	394%	127%	210%	220%
水道水の削 減	6	m ³	1,920	1,824	1,735	○	1,805	1,786
		基準年比	2018年	95%	90%	105%	94%	93%
化学物質の 管理	3		活動目標	在庫数の管理 漏洩、蒸発、転倒などの防止管理 置き場表示、盗難などの管理				
グリーン購 入の推進	12		活動目標	環境配慮製品の積極的購入				
回収精製事 業の売上UP	12	万円	1,036	2,072	3,564	○	3,108	3,315
		基準年比	2018年	200%	344%	172%	300%	320%
事業の効率化			活動目標	今年度は内容の検討中				

□環境活動計画及び取組結果とその評価、次年度の取組内容

数値目標: ○達成 ×未達成

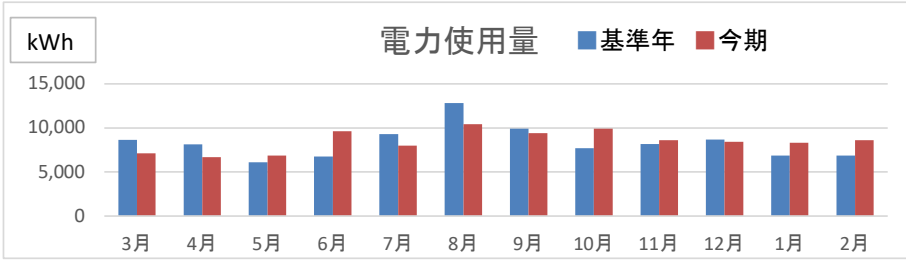
活動: ○よくできた △さらに取組が必要 ×全くできなかった

取り組み計画	達成状況	取組結果とその評価、次年度の取組内容
--------	------	--------------------

電力による二酸化炭素削減



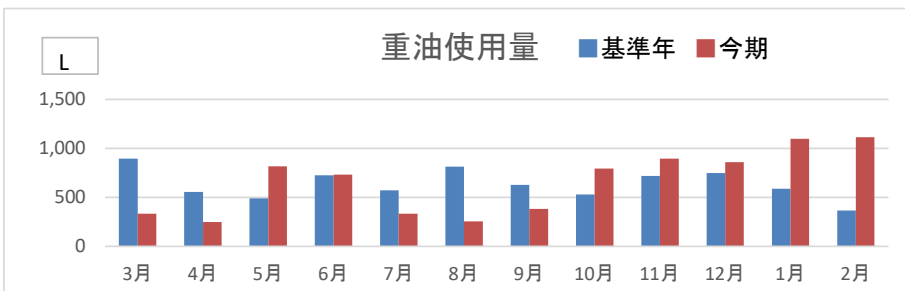
数値目標	達成状況	今期はチラー冷却を必要とする回収精製事業が回復し作業数も昨年に比べ増加したが、夏場にチラー冷却案件がなかった事もあり数値目標を達成することが出来た。次年度は設備のメンテナンス、作業ミス収量ロス削減、売上げに対する原単位での評価を行う。
・空調温度の適正化 (冷房27℃ 暖房22℃)	△	
・不要照明の消灯	○	
・冬季のヒーター使用時の保温対策	△	
・2017.7月より全棟の主要部分の照明をLED化	○	



A重油による二酸化炭素削減



数値目標	達成状況	後半ボイラー使用案件が続いたため使用量が増加した。使用量の削減には繋がらないが、来期よりスチーム配管の保護を考え凝縮水の抜き作業を行う。来期より売上げに対する原単位により評価を行う。残圧を有効利用した作業運転を行う。
ボイラー循環水の水質管理を行い、配管へのスケール	○	
付着による熱伝導率の低下を防ぐ	○	



自動車燃料による二酸化炭素削減



数値目標	達成状況	社用車、トラックの運用回数が増加した為、使用量の増加が見られた。来期より不要物の積載を無くし燃費向上を目指す、走行距離も記録し評価を行う。
・アイドリングストップ	○	
・効率的なルートで配送	△	
・低燃費車への乗り換え	○	

一般廃棄物の削減




数値目標	達成状況	今期よりコンサルタント指導による3S活動を行ったことにより廃棄物量が増加した、来期も同様な廃棄物量が見込まれる。来期は印刷物の削減と裏紙の使用、電池廃棄時の残量チェックを行い廃棄物の削減を行う。
・分別の徹底	○	
・帳票見直しによる印刷物の削減	△	
・梱包材の再利用	○	
・3S活動の推進	○	

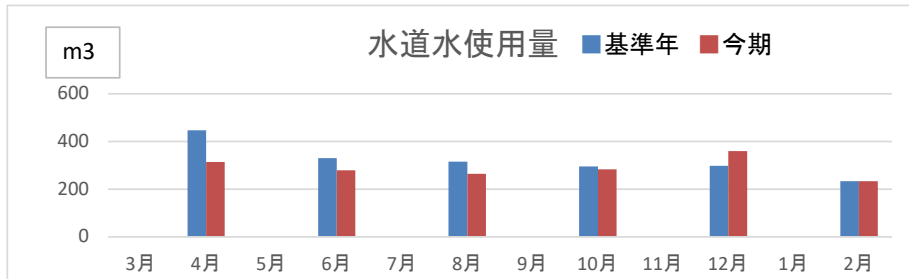
廃液の削減





数値目標	達成状況	今期は回収精製事業が昨年に比べ回復し、フッ素含有廃液量が増加した。来期より回収精製事業の出荷量に対する原単位での評価を行う。
・生産効率向上により廃棄量の削減をはかる	△	
・種類により分別	○	
・3S活動の推進 (部門別活動計画書で運用)	○	


取り組み計画	達成状況	取組結果とその評価、次年度の取組内容
--------	------	--------------------

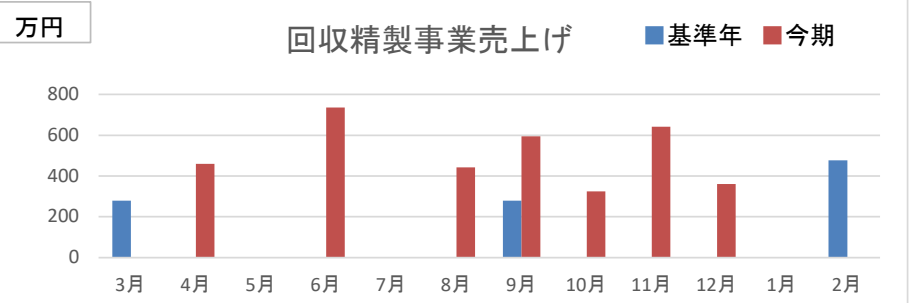
		
水道水の削減		
数値目標	○	今季は水道水を使用する案件が減少した。来期は各工程での使用量の見える化を進め、より節水に努める。
・水道メーターの検量	○	
・節水弁取り付け	△	
・洗浄工程の改善	○	



		
化学物質の管理		
数値目標	-	スポット案件も増え、取り扱う化学薬品の数も増えている為にSDSによる緊急時の対応など事前に把握を行っていく。今後も引き続き、危害防止活動を推進するとともに漏洩防止に努める。来期より溶剤の色分け管理を行う。
・有害性物質の表示の徹底	○	
・容器の蓋の徹底	○	
・SDSリスク管理	○	

		
グリーン購入の推進		
数値目標	-	グリーン購入法適合商品の購入を行っている。 エアコン1台を更新
・有害性の少ない資材の購入	○	
・省エネ性能の高い電気製品の購入	○	
・燃費のよい自動車の採用	○	

		
回収精製事業の売上UP		
数値目標	○	今期は順調に回収液の納入を頂き売上げを伸ばすことが出来たが、12月に弊社設備が破損した為に1月以降の製造が中断し期末の出荷が困難であった。3月以降の復旧を目指す。来期はコロナウイルスの影響を加味し、目標値を設定した。
・回収精製事業の売り上げup (循環資源への配慮)	○	
・入出荷トラックの有効利用	○	
・コンテナ容器の繰り返し利用	○	



課題を解決しチャンスを活かす取組み		
設備の更新		今期は3S活動をメインに行い、社内環境の改善を行った。来期は設備の更新と合わせて設備の省エネ化を行う。
3S活動		
作業時間の適正化		
工程管理		
設備のメンテナンス		

社会貢献		
・地域清掃	○	全社員の美化意識の向上、近隣の皆様とコミュニケーションUPを図る。
・近隣の方のお手伝い	○	

□環境関連法規等の遵守状況の確認及び評価の結果並びに違反、訴訟等の有無

法的義務を受ける主な環境関連法規制は次の通りである。

適用される法規制	適用される事項（施設・物質・事業活動等）
廃棄物処理法	一般廃棄物、産業廃棄物（金属クズ、廃プラ、廃ガラス、廃油、廃液等）
化審法	新規化学物質製造、既存化学物質製造
P R T R法	対象物質の移動量報告（報告対象外）
フロン排出抑制法	業務用空調機
消防法	危険物の保管
労働安全衛生法	S D S義務物質のリスク評価
顧客要求事項	化学物質管理

環境関連法規制等の遵守状況の評価の結果、環境関連法規制等は遵守されていました。

なお、違反、訴訟等は過去3年間（あるいはこれまで）ありませんでした。

□緊急事態への対応訓練

12 環境 100%	緊急事態の想定： 化学物質の漏洩事故対応訓練
■実施日：	2019年9月19日 午前8時半～9時
■実施場所：	弊社7号棟
■参加者：	社長、尾崎、玉谷、北野、三好、寺坂、乃村、阪本、面谷、金城、利幸取締役
■実施内容：	・漏洩事故対応訓練、行内放送実施、下水道局、豊中市環境対策課、消防・近隣への連絡体制確認
■評価：	手順書の改訂の必要性 <input checked="" type="checkbox"/> あり <input type="checkbox"/> なし
<p>今期は7号棟200L釜の釜下抜きバルブ破損により内容物である化学物質の漏洩事故が発生したことを想定し、ウエス、吸水マットの持参から対応活動まで手順の確認を行った。 実際行ってみて、漏洩箇所の拡大防止対策として土のう袋の準備、防油堤があふれる際のこと考慮し廃液用ドラムの設置にて道路への漏洩を防ぐことの重要性が分かった。</p>	
<p>■実施状況の様子</p> <p>今回は7号棟奥のSUS製200L釜から内容物が漏れ出した際の対応訓練を行った。 防油堤があふれる際のこと考慮し廃液用ドラムも用意した。</p>	
 	

□代表者による全体の評価と見直し・指示

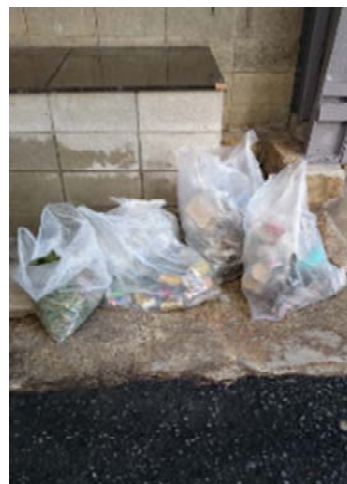
定期見直し：2020.6.16

今年度はエコアクション活動5期目に当たり、2019年2月より外部講師を迎え3 S活動を再スタートした。各作業場の整理整頓と安全標示等の見える化を進めた。 この活動によって、一般廃棄物・廃プラ・廃ガラス等の排出量が一時的に増加したが、作業スペースの有効化や安全性は格段に向上し、作業の効率化に結びついている。 今後はBCP対策を盛り込んだ活動に注力し、この活動によって新しい事業にチャレンジする機会を増やし、より一層の環境対策を考慮したシステムづくりにつなげたいと考える。

環境方針： 変更あり 変更なし
 環境目標・活動計画： 変更あり 変更なし実績を踏まえて見直す
 実施体制： 変更あり 変更なし

□環境活動の紹介

SDGs⑪の目標:「住み続けられるまちづくりを」に対応した活動



地域の清掃活動を全社員で週1回行っている、回収したゴミは分別処分を行っている。
全社員の美化意識の向上と地域の皆様との繋がりを深めることを目的に行っている。